

## 【一中】卒業式準備

今年度も、多くの生徒のお陰で、卒業式の準備が整いました。昨年度は「雑草という草はない」という昭和天皇の言葉のエピソードとともに生徒の頑張りを紹介しましたが、今年も生徒が黙々と作業してくれる姿を見て、本校の財産だと再確認したところです。昨年度も同じように記載しましたが、コロナ禍でエッセンシャルワーカー、「生活必須職従事者」とも呼ばれる、医療や福祉、第一次産業や行政、物流や小売業など、いかなる状況下でも必要とされる社会生活を支える職の人々にスポットライトが当たりました。その方々の個々のお名前は表には出てきません。それでも、その方々は精一杯、自分の役割を果たされています。本校の生徒には、先ずその存在に気づくことが出来る人になってほしいと思います。「一中 大好き」の先にある「〇〇大好き」という社会を支える人に気づいてほしいです。そして、将来は「〇〇大好き」な、社会（集団）を支える人に育ててほしいと思います。すでにそのように育てているとも思います。卒業する3年生は、1年前に卒業式を陰から支える仕事をしてくれました。1, 2年生が昨年同様に支える仕事をしてくれたことをわかってくれると思っています。全校で3年生のハシの舞台を支えて、3年生と一緒に素晴らしい卒業式を作ることが出来ればと思っています。

いつも「支える人に…」ということばかりを強調していますが、精神科医の村上 伸治さんが次のように書かれていました。

『自立とは上手に依存すること、「人に頼る」とか「助けを求める」のは未熟であり、自立した人ではないと考える人が多いかもしれません。ですが、そうではありません。赤ちゃんや幼児は、親にしっかりと甘え、依存するなかで心が成長していきます。依存は自立へと向かうために不可欠です。誰も頼らず依存しない幼児は、健全に成長できるでしょうか。恐らく難しいでしょう。乳幼児期にしっかりと依存することが、後の自立へとつながります。また、自立を「誰にも頼らないこと」と考える人が少なくありませんが、自立とは本当は「依存先を増やすこと」です。たとえば車いすで生活をしている人は、多くの人や物に助けをもらう必要があります。頼る先が特定の人に集中するのは避けるべきですが、多くの人に少しずつ上手に依存して、自分なりの生活をしている姿は、自立しているといつてよいのです。このように「自立とは上手に依存すること」です。人が育つ過程でもっとも身につけなくてはいけない能力のひとつは「上手に人に助けをもらう能力＝ヘルプシーキング能力」です。』

真面目な人ほど自分がしなければと思いがちですが、「お互い様」の気持ちを忘れずに肩の力を抜くことも忘れないでほしいと思っています。

